

霊 聲

れ い せ い

2009年10月 (第175号)

北米ホーリネス教団

OMS Holiness Church of North America

www.omsholiness.org

reisei@omsholiness.org

御霊のことばをもって御霊のことを解くのです。(コリント第一の手紙2章13節)

故郷へふたたび

安藤秀世

(教団伝道師)

何だか心細いなあ、と思いながら羽田空港を出た。夕闇迫るころだった。

果たして日本に再び帰って来られるのだろうか。一体将来どうなるのだろうか。特に希望も目的もないまま、日本を出たのが四五年前の春も終わりごろ。

ロサンゼルスに着いてしばらくたつたって、取りあえず語学学校へ行こうと二五セント出して通い始めた。日本人ばかりの友達が出来た。歌が歌いなくなつて、色々探し出して行き着いたのが教会。むかし叔母から讃美歌を教えて貰ったことがあるので、教会は抵抗がなかった。そこがロサン

ゼルス・ホーリネス教会だった。

聖歌隊に入り、声の限り歌っているうち、あれよあれよという間に洗礼を受けた。

教会に行き出してからわずか四カ月。神に捉えられた瞬間だ。

そうこうしている内に色々な集会にも出るようになり、信仰の何たるかを先輩を通して学ぶ機会が与えられた。信仰が生きているものであることを多くの先輩たちを通して教えられた。知識でも何でもない、聖書の言葉をその通り

実践しているということを見せつけられた。これは強烈な体験だった。これが後々、自分の生き様に大きく影響しようとは夢想だにし得なかったことだ。

やがて大学に通うようになりコロラド州の大学、カリフォルニア州立大学と学びを終え、仕事にも就き、生涯の伴侶も与えられた。私より信仰においてはしっかりとしている女性で、その後の人生のよき助け手であり、良き伴走者である。

子供も与えられ、家庭も円満、仕事もまあまあ順調。しかしそんな時、腹部にソフトボール大の腫瘍が見つかり摘出手術をするも癌と診断され、十七インチも開腹。五〇歳の時だった。

集中治療室に三日間閉じ込められ、一般病棟に移った後、チューブから液体食物を二週間取り続ける。毎日白い天井



安藤師と由美子夫人

を見ながら、悶々とした日の中で苦悩の祈りばかりが続く。その時に六一歳からの召命が与えられた。

退院した二年後、ラスベガスへの伝道が始まる。このアウトリーチは一〇年間続く。

また日本から伝道に来られていたS牧師から、「アメリカにいる日本人伝道に君たちアメリカにいる者が立ち上がらなければ駄目だ！」と喝を入れられ、そのまま彼の主宰するアメリカの神学校日本分校に即入学。通信教育だったが四年半かかって卒業。

いよいよ牧師としての新しい出発である。まだ奉仕先が決まらない先に会社も辞め、ひたすら何処に遣わされるのかを祈る。三カ月の祈りの後、サウスベイ・ジャパニーズ・クリスチャン・フェローシップから招聘がある。牧師としての訓練は何も受けていなかったが、ロサンゼルス・ホーリネス教会で三五年間信徒として四人の素晴らしい牧師に

仕えさせていただき、またその間ラスベガス・アウトリーチという貴重な経験から、何とか見様見真似の牧会を始めた。

一〇年間の牧会もあつという間に過ぎ去った感じであるが、内容はともかく、広い範囲で働きをさせていただけたことは何より幸いなことであつた。

まだまだ牧師として未熟な者を、年に二度の日本伝道へ行くという少々無謀とも思われることを教会は快く許してくださったり、また物心両面で応援をしてくださり、それらのことがその後の私の働きを大きく前進させたことは否めない。神は私ばかりでなく、教会をも動かしてくださっていた。

日本に行くたびに多くの失われた魂に心が痛む思いで、気が重くなる。一人では何が出来るか、たかが知れているという思いがある一方、この者一人が出来ることがあるの

ではないかとの思いも交錯し始めた。

このたびの日本への宣教の決断も、ここ数年間の思いが神の時となって、決まったことだ。

時間的には急な決断であつたとしても、頭の中ではいつも思い巡らしていたことが、今という時に現実となつただけのことと理解している。

神の摂理が見えないものから見えるものへと変わった。しかし、私にとっては大きな変化には違いない。この年齢で一体受け入れてくれる働き場所があるのか心配だったが、やはり三カ月の祈りの結果、働き場所も与えられた。教団がバックアップとなつてくださる恵みも大きい。多くの祈りが背後にあるこの宣教は、四五年前に日本を出る時から神の側ではすでに決めておられたこと。このご計画にお従い出来ることは、この身に余る光栄だと思っている。

このような形で「故郷へふたたび」戻ることは全く予想

もしていなかったこと、しかしこれが、主が私を選び取ってくださったことと確信して日本に行く。

皆さんの背後の祈りなくしては、日本での働きはおぼつかないものと思っている。

もつと言わせていただければ、日本での私たち夫婦の働きは皆さんの祈りにかかっていると一言わけていただいても過言ではないと思っている。

どうか、私たち二人のために日ごとの祈りに覚えてくださるように心よりお願いいたします。全ての栄光を主に帰して。

安藤師夫妻は、2010年2月の第1主日から、愛知県の春日井福音キリスト教会で3年契約の奉仕を始めます。

教会住所：〒486-0903

愛知県春日井市前並町 1-4-25

Tel：0568-32-0963

名古屋方面にお立ち寄りの折にはぜひ教会を訪問してください。

二〇〇九年教団総会

今回は、サンロレンゾ教会を会場にし「燃える心、絶えざる祈り」(ルカ伝二四章32節)のテーマのもとに開催された。八七名の牧師と代議員たちは、中馬リック師を議長として常務委員会の報告を受け、教団総会の提案事項を審議した。

◆常務委員会報告

一〇の常務委員会からは、過ぎ去った一年の間も主なる神様に守られてきたことが報告された。

◆新・常務委員会

議長 山下グリー兄

英語部常務書記 本多一米師

日語部常務書記 大倉信師

教団会計 玉川フェイ姉

新任 伊達スタン兄、中筋ポール

兄、イ・ロッド師

留任 永井祥太郎兄、鈴木栄一師

知念ドリス姉

再任 島田直師、富田セツ兄、横

溝ブライアン兄

◆司法委員会選出

安次富ケネス師、中尾邦三師、比嘉ラッセル師、東フランク兄、斉藤ウオルター兄

◆正教師会への加入と握手礼

今回の総会でイ・ロッド師が正教師会に加入された。また、総会では宮本スタン牧師(ウエストオアフ教会)の握手礼式が持たれた。玄仁牧師(ツーソン教会)の握手礼式はツーソン教会で七月十八日にもたれることとなった。

◆教団総会提案事項

提案一 教団予算案承認

提案二 ライセンス承認

提案三 憲法改正 否決

提案四 憲法細則改正 否決

◆奨励

昨年に続いて、C Y A (英語部カレッジ・ヤング・アダルト)から四名の青年たちが分かち合いをしてくださった、総会のために祈りの時を持った。彼らの純粋で、希望と信仰ある言葉に感動した。

また、杉村宰師は教団の創立当時のことについて、先駆者たちは伝道の情熱、祈りの情熱を持っていたことを話してくださった。そしてホーリネスとは喜びをもって生きることと締めくくられた。

最も新しい教団牧師、矢田エリック師は、伝道して魂の救いのために情熱を傾けようと励まされた。

溝口俊治師は、能力よりももっと影響力のある「キリストの姿」を表そうと奨励された。

◆転身

今回は、献身生涯を送られる二人の方々が、今までとは違った方向に進まれることになり、祈りの時が持たれた。まず、安藤秀世師夫妻。先生方は今までサウスベイ教会でご奉仕されていたが、この九月からは教団伝道師とし



スタン宮本師の握手礼式

て転身。来年二月から日本で伝道される。二人目は、中馬リック師で、この度J E M S (日本人宣教協議会)常務理事主事として務められることになった。これらの方々の働きが導かれるように一同心を込めて祈った。

◆祈りの時

教団総会でのハイライトは、牧師、代議員一同心を込めて教会のために祈ったことであった。一つの教会の牧師と代議員の頭に手を置いて、新しい年度主の祝福があるようにと代表者が祈った。(文・溝口俊治師)



新常務委員会のメンバーたち

北米日系人社会に貢献した人々

オレンジ郡教会 牧師 杉村 宰

今夏の『TVファン』の九月号に山中真知子氏がハーバート・ニコルソン先生について書いておられる。四半世紀前に召された宣教師であられるにもかかわらず、彼は今も日系人の中で熱く語られ、慕われる人物の一人である。

彼はクウェーカー教徒であった。別名、フレンド派とも呼ばれている。日米大戦当時、彼らはこう言われていた。「戦時中、日系人の側に立ってくれた唯一のアメリカ人」とか、「強制収容所時代の最初のクリスマスに、子供たちに贈り物を贈ってくれた唯一の人々」とか。あるいは、「キャンプで産まれ



た子のためにしてやれる唯一の新しい物といえ、あるクウェーカー婦人の織ってくれたキルトでした」とか。それほど戦時中の日系人に対して愛の手を差し伸べてくれた人たちなのである。

フレンド派の貢献によって戦時中でも二世は大学に入れたし、奨学金ももらえたし、収容所からも安心してカリフォルニアに帰り、仕事ももらえたのである。

その働きはさらに日米戦争後の荒廃した日本へ、七年間にわたってララ物資と呼ばれた日用品の配給から、現天皇・皇后両陛下の英語教育にまで及び、つい最近でも戦後の強制収容所に幽閉された日系の方々への賠償金獲得のために貢献してくれた。ほぼ百年近い間、彼らは絶えず日本及び日系社会へ貢献して来られたのである。

ニコルソン師は主に茨城県下のフレンド派の間で活躍されたが、教会内外での活躍は日本の小学校の教科書にまで「山羊のおじさん」

として掲載され、一九六三年には日本各地の二六五の学校で講演している。戦後の荒廃した日本の再興のための働きは、決して小さなものではない。

彼は一九一五年に初めて日本に渡り、妻マデリンと水戸を中心に伝道活動をした。ところが日米間に戦雲が立ち込めるようになり、二五年の宣教活動を終えて一九四〇年に帰ることになった。パサデナに戻った彼は、翌年からウエスト・ロサンゼルス日本人メソジスト教会の牧師として赴任する。

ところがその年の暮れに真珠湾が攻撃され、ニコルソン師は日系人救済のために東奔西走の働きをする。パサデナにあるフレンド奉仕団の事務所は、彼が日系人のために働くように特別に依頼してきた。日系人の危険分子逮捕に続き、婦人たちもターミナル島一時収容所に閉じ込められたので、海軍情報部やFBIに掛け合い、逮捕された家族にその様子を伝えるための訪問が始まった。二世の通訳は信用されていなかったもので、通訳が人手不足であった。そこで聴聞会、連邦検察局、法務局、収容所、アッセンブリー・センターでの通訳、慰問にもあたった。

彼の奉職していたウエスト・ロサンゼルス日本人メソジスト教会員が送られたのはマンザナ強制収容所であった。そこからぜひ来て欲しいとの手紙がきた。彼はトラックに教会用のピアノ、書籍、他の収容所で必要としている書物などを、ロサンゼルス公立図書館からもらい受けて出かけた。以来、彼はトラック運転手として収容所を慰問して回る。カリフォルニア各地を転々とし、アリゾナ州のポストンとギラ、ユタ州のトパズ、アイダホ州のミニドカ、ワイオミング州のハートマウンテン、コロラド州のアマチ、モンタナ州ミゾーラまで行って問安し、講演している。戦時中、彼は三五人の葬儀の司式をした。

最初のクリスマスを迎える強制収容所でもサンデー・スクールの子供たちにプレゼントを集めるように企画したのだったが、「敵を元気づける」ことを恐れて、パサデナの第一メソジスト教会以外は、ただの一つの教会も参加はしなかった。ニコルソン師はフレンド派のメンバー達の一万個のプレゼントをトラックに載せて収容所の問をくぐった最初の人になった。

(続く)



赦された喜び
ウィルソン美代子
(ホノルル教会)

もう何十年も前のことですが、当時大活躍をされていたピリー・グラハム師の分かりやすいメッセージを熱心に聴き、洗礼を授ける決心をしました。これまでの自分中心というの罪の生き方を悔い改め、一九六八年六月三〇日に宣教師のオリバー・シメンス牧師からオアフ島のヌアヌ川で洗礼を受けました。

昨年、鈴木先生のご指導のもと、リック・ウォーレン牧師の『人生を導く5つの目的』という本をテキストとして、神様が私たちを造られた目的について学びました。その第一の目的は「あなたは神の喜びのために造られた」とあります。果たして自分は神様の喜びになっているのだろうか、私のよくなる者をも神様は喜んでくださ



るのだろうかと思われ、自分これまで生きてきた態度や行いを反省させられました。

クリスチャンになる前は神様を意識しない、普通の生活をしていましたから、良心がとがめるようなことをしても、神様を悲しませるといふ発想は全くありませんでした。では、洗礼を受けてからはどうかというと、クリスチャンらしく生きようと努力していても、悪魔の誘惑に負けることもたびたびでした。

自分で意識している大きな罪、知らずに犯している小さな罪、数え切れません。これでは、私は神様が私を造られた第一の目的のようにはなく、神様の喜びどころか、神様を悲しませていたことに気が付かされました。

これまでも罪を意識した時、神様に「私の罪をお赦しくください」

と祈っていました。でも、自分に聖めの確信がなかったのです。不信仰です。自我や悪魔の誘惑に陥った経験の連続です。

では、どうすればこの問題を解決できるのかと神様に祈りました。そうしているうちに、聖書の御言葉、ヤコブ書五章一六節「ですから、あなた方は、互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい。癒されるためです。義人の祈りは働くと、大きな力があります。」を与えていただきました。

それでは、私の罪を他のクリスチャンに告白して、とりなしの祈りをしてもらおうと、思い巡らしている、「牧師に告白」という思いが何度も心に響くのです。聖霊の導きだと思いました。

牧師に自分の過去の「大小の罪」をありのままに話すことは、つらく恥ずかしいことでした。自分の醜さや罪を教会の長である牧師に話すのですから。しかし、牧師は真面目に聞いてくださり、とりなしの祈りをささげてくださいました。私も涙ながらに、神

様にこれまでの罪をお詫びしました。

牧師は、ヨハネ伝八章にある「姦淫の女の石打の刑」の例を用いて、罪の赦しを説いてくださいました。

その時、私はこれまで背負っていた重荷を十字架の前で降ろしました。イエス様も私のためにとりなしをしてくださったと思います。

これまで、私の心の奥で見え隠れする罪責感、嫌な思いや悲しい思いが全くなりませんでした。難しい言葉で言えば、第二の転機でした。古き人の死と新しい人の復活の体験でした。新しく洗礼を受けたような喜びが私の心に戻ってきました。

聖書の第一ヨハネ一章九節、「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。」という御言葉を体験させていただきました。本当に感謝なことでした。

教団ニュース

■二〇一〇年牧師リトリート
一月二五日(月)～二八日(木)
会場 Water Dolrosa Retreat Center
オンラインにて登録できます。

教会ニュース

■サンロレンゾ教会は、七月十日(土)、教団総会終了後の午後四時半から、教会創立八〇周年を歴代牧師夫妻はじめ信徒ら二八〇人が集い、お祝いしました。

■今年の教団総会で次年度の教団総会に備えて、改正憲法と改正細則を各教会で良く検討するようにとの要請がありましたので、サンタクララ教会では、それを検討する委員会を日英合同で発足させました。当教会の検討委員会で作成した資料は他教会にも参考になると思いますので、必要の方にお分けいたします。サンタクララ教会までお問い合わせください。

■北加新年聖会は、安藤秀世先生を講師に、二〇一〇年一月九日(土)午前十時三十分と午後一時三十分の二回、サンタクララ教会で行われます。

■北加宣教会大会は、二〇一〇年二月二十日(土)サンタクララ教会で行われる予定です。日程については変更の可能性があります。

■北加では、二〇一〇年四月二三日(金)夜、二四日(土)午前・午後の三回、村上宣道先生と榊原寛先生を迎えて伝道聖会をします。このために超教派で「北加日語クリスチヤン委員会(会長・島田直師)」を結成して準備にあたっています。

■サンタクララ教会では、二〇一〇年四月二五日(日)に村上宣道先生を迎えて教会合同四十周年記念礼拝を予定しています。

■南加新年聖会は、二〇一〇年一月八日(金)九日(土)の二日間亘って、フラートンのクラウン・プラザを会場に行われます。

消息

■中村裕二牧師(ウエストオアフ教会)は、三月五日、直腸がんの手術を受けられました。引き続き自宅で療養中です。

■玄仁牧師は、七月十八日ツーン教会にて按手礼を受けられました。現在永住権申請中です。労働許可は降りましたが、引き続き永住権取得のために祈りください。

■鍵和田哲男牧師は、サウスベイ教会へ転任されました。

■辻本清臣牧師は、サンファナンド教会へ赴任されました。

■大川道雄師(さとこ夫人)四月より四国の高松において、宣教師と協力して七つの教会の伝道、牧会しています。健

康と経済のためにお祈りください。一年半後にアメリカに帰る予定です。是非高松に訪問してください。一〇月で七歳になります。

■安藤秀世牧師は、教団伝道師として二月より愛知県春日井福音キリスト教会において三年契約の奉仕を始めます。

編集室から

▼七〇歳を過ぎてからの新たな出発する方、新しい任地へ向かわれた方、日本で奮闘している方、病の中で戦っておられる方、伝道牧会に励んでおられる方々の姿に主の栄光を見ます。主の教会がさらに祝福があるように、祈らずにおれません。(真)

教団所属教会

(カリフォルニア)

フリーモント教会
サンロレンゾ教会
サンタクララバレー教会
ウォルナツツクリーク教会
ロサンゼルス教会
サンファナンド教会
サウスベイ教会
ウエストコビナ教会
ウエストロサンゼルス教会
オレンジ郡教会

アーバイン伝道所
ホイットティア教会
サンディエゴ教会
ノースカウンティ教会
(ハワイ)

ホノルル教会
ウエストオアフ教会
ミリラニ教会
(アリゾナ)

ツーン教会
(詳しくは www.omsholiness.org を参照)